

デバイスレス・ワンタイムパスワード

Pass  **Logic**

エンタープライズ版

アップデート概要とリリースノート（エンタープライズ版 Ver.6.0.0）

2024/07/01



PASSLOGYTM

インデックス

index

1.	<u>PassLogicの歩み</u>	3
2.	<u>サポートについて</u>	4
3.	<u>リリースノート</u>	5
4.	ピックアップ		
•	<u>機能追加</u>	9
•	<u>機能改善</u>	10
•	<u>仕様変更</u>	11



PassLogicの歩み

パソロジック方式から「多要素認証プラットフォーム」の高機能化へ

1997 「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システム「パソロジック方式」を発明。

2000 パソロジック方式のシステムが米国特許 (US6141751) を取得。会社設立。



2000 | パソロジック方式の技術ライセンスを日本企業へ提供。

2006

2007 PassLogicのパッケージ販売を開始。SSL-VPN連携機能を実装。

2008 Webサービス組み込み用APIを強化。スマートフォンにいち早く対応。

2009 Webアプリとの連携機能 (リバースプロキシ & SSO) を実装。LDAPからのユーザーID同期を実装。

2010 セキュリティポリシーや運用機能、連携機能など基本機能を大幅に拡充。英語に対応し海外展開が可能に。マルチテナント版をリリース。

2011 クラウドアプリ連携 (SAML) に対応。スマートフォン最適化。

2012 マルチテナント版の機能を拡充しサービスプロバイダのデファクト採用の礎に。(ソフトバンク/富士通/KDDI/NEC/IJなど)

2013 運用の自動化を実現する機能を拡充。

2014 小規模から大規模要件まで対応可能なエンタープライズ版をリリース。



2015 エンタープライズ版の機能を拡充。主要連携製品とメーカー間の検証を完了。ソフトウェアトークンの提供を開始。



2016 利用者視点の機能強化を中心に、計5回のアップデート、約70の機能追加・改善を実施。

2017 IPアドレス制限、Windowsログオン、PKIに対応のメジャーバージョンv3.0リリース。ハードウェアトークン対応、API提供開始のv3.1リリース。

2019 エンタープライズ版にマルチテナント機能の提供を開始。

2020 PassLogicクラウド版の提供を開始。

2021 ログインプロテクト機能をリリース。

2022 PassLogicレジリエントサービスをリリース。

2023 Windowsシームレスサインオン機能をリリース。



2024 PassLogic認証 (マトリックス方式) にログインプロテクトを連携。



サポートについて

PassLogic エンタープライズ版 Ver.4以降のサポート内容は以下の通りです。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) のMaintenance Support (一般のサポート) の終了日までがPassLogicの通常サポート期間です。
- RHELのMaintenance Supportの終了日から最大3年間で延長サポート期間です。

■ 通常サポート

- バグ修正を含むアップデート、対応策、またはパッチを提供します。
- 報告された問題を修正する場合、原則としてソフトウェア・アップデートが必要です。

■ 延長サポート

- 契約更新やID追加時にライセンスファイルを提供します。
- お問い合わせにより、事象の再現確認が必要な場合は、パスロジ株式会社が保有するRHELの最終リリースバージョンを使用します。
 - ※ お客様環境で使用されているRHELにバージョンを合わせた再現調査は実施していません。
 - ※ RHEL 7以降のOSが対象となります。RHEL 6以前のOSは対象外です。
 - ※ RHELのサポート終了後、最大3年間の延長サポートを提供します。
- 機能追加や不具合/脆弱性を修正するパッチは提供していません。

2024年7月1日時点

PassLogicバージョン	通常サポート	延長サポート
PassLogic エンタープライズ版 Ver.6.0.0 (RHEL 9)	2032年5月31日	2035年5月31日
PassLogic エンタープライズ版 Ver.5.0.0~5.1.0 (RHEL 8)	2029年5月31日	2032年5月31日
PassLogic エンタープライズ版 Ver.4.3.0~4.3.2 (RHEL 8)	2029年5月31日	2032年5月31日
PassLogic エンタープライズ版 Ver.4.0.0~4.2.0 (RHEL 7)	2024年6月30日	2027年6月30日

※PassLogic エンタープライズ版 Ver. 3 以前については変更ありません。



リリースノート



【機能追加】

- PassLogicが動作するサーバーOSとして、新たに「Red Hat Enterprise Linux 9」に対応しました。 pickup

【機能の拡張・改善】

- PassLogicのインストールで提供されるhttpd設定ファイルを更新しました。これにより、以下の項目が改善されます。 pickup
 - TLS設定がIPAの「TLS 暗号設定ガイドライン第 3.0.1 版」の「推奨セキュリティ型」に準拠しました。
 - 設定ファイルの構造化と変更対象の明確化により、システム管理者による編集が容易になりました。
- ハードウェアトークンによるTOTP認証を利用するユーザーへの通知メールのテンプレート用に、PINコードを通知する置換タグ<%TOKEN_PIN%>を追加しました。これにより、ユーザーごとの個別のPINコードをメールで通知できるようになりました。
- クライアント証明書の形式を「X.509v1」から「X.509v3」に変更しました。発行済みのクライアント証明書は引き続き利用可能です。なお、global_setting.phpの設定を変更することで、「X.509v1」形式でクライアント証明書を発行することも可能です。
- クライアント証明書の暗号化方式に、新たにOpenSSL v3 (SHA256※1) を追加しました。これにより暗号化方式は、OpenSSL v1 (SHA1:従来方式) とOpenSSL v3 (SHA256) の2種類から選択可能になりました。
- PKI設定※2のルート証明書とクライアント証明書の有効期限を、OpenSSLで正常に設定できる最長の2049年12月31日までとしました。
- PassLogicの管理ツールの「SAML > 証明書管理」において、登録した証明書と秘密鍵が正しいペアでない場合に、専用のエラーメッセージを表示し、エラー内容がわかるように変更しました。

※1 SHA256は、ハッシュ関数Secure Hash Algorithm 256-bitの略です。

※2 PKIは、公開鍵暗号基盤 Public Key Infrastructureの略です。

【仕様変更】

- SAMLの署名方式をよりセキュリティ強度の高い「SHA256」に限定し、安全性を高めました。 pickup

【不具合修正】

- マルチテナントをご利用の場合において、子テナント（各テナント）のサービスプロバイダー（SP）登録画面にIPアクセスグループが表示されない不具合を修正しました。
- ルート証明書およびクライアント証明書の有効期限に関する警告において、残り日数算出時の不具合を修正しました。



ピックアップ

サーバーOSが「Red Hat Enterprise Linux 9」に対応

pickup \機能追加／

PassLogicが動作するサーバーOSとして新たに「Red Hat Enterprise Linux 9」に対応しました。

PassLogicバージョン	サーバーOS	Httpd	php
PassLogic エンタープライズ版 Ver.6系	Red Hat Enterprise Linux 9.2以降 x86_64 (9系) <small>※RHEL 8以前およびRHEL 9.0-9.1はサポートしません。</small>	Apache HTTP Server version:2.4 Release:2.4.53-11.el9_2.4 以降	Version : 8.0 Release : 8.0.27-1.el9_1 以降
PassLogic エンタープライズ版 Ver.5系	Red Hat Enterprise Linux 8.3以降 x86_64 (8系) <small>※RHEL 8.2以前およびRHEL 9.0以降はサポートしません。</small>	Apache HTTP Server version:2.4.37 Release:21.el8.2.0 以降	Version: 7.4.6 Release:4.module_el8.3.0 以降



カスタマイズしたテンプレートファイルの修正について
RHEL 9ではPHPのバージョンが8.0にアップデートされました。これにともない、以前のPassLogicバージョンでテンプレートファイルをカスタマイズしている場合は、PHP 8.0に対応するように修正をお願いいたします。

[PHP8.0の互換性について詳しくみる](https://www.php.net/manual/ja/migration80.incompatible.php) (https://www.php.net/manual/ja/migration80.incompatible.php)

インストールで提供されるhttpd設定ファイルを更新しました

pickup

＼機能改善／

PassLogicのインストールで提供されるhttpd設定ファイルを更新しました。

改善点1

ガイドライン準拠

TLS設定がIPAの「TLS 暗号設定ガイドライン 第 3.0.1 版」の「推奨セキュリティ型」に準拠しました。

改善点2

システム管理の簡便化

設定ファイルの構造化と変更対象の明確化により、システム管理者による編集が容易になりました。



httpd設定ファイルの構造をより分かりやすく整理しました。編集可能なファイルと変更すべきではないファイルを分離することで、アップデート時に上書きされることを防ぐなど、システム管理者による編集が容易になりました。

SAMLの署名方式「SHA1」のサポートを終了します

pickup \仕様変更／

SAMLの署名方式をよりセキュリティ強度の高い「SHA256」に限定し、安全性を高めました。

SAML署名方式

SHA1

セキュリティ上の理由から、SAMLの署名方式「SHA1」のサポートを終了します。



SAML署名方式

SHA256 に限定

「SHA1」をご利用中の場合、V6.0へ移行後は自動的にSHA256で署名されます。



アップデート実施後は「SHA1」を選択していた場合でも「SHA256」によって署名されます。連携済みのサービスプロバイダーがSHA256をサポートしていることをご確認ください。
※ 本バージョンでSHA1のサポートを終了しますが、Ver.5.1.0以前のバージョンではサポートを継続します。